「履歴書および研究業績目録」作成・提出上の注意

「履歴書および研究業績目録」の作成・提出にあたっては、下記の注意事項にご留意いただき、記載例を参照願います。

**１．作成・提出全般に関する事項**

○必ずワープロソフトで作成して下さい。推奨する体裁は、下記のとおりです。

・ワープロソフト：**Windows版 MS-Word**

・用紙サイズ：**A4**

・文字サイズ：**10.5～11.0ポイント**

・フォント：**明朝体**

・１ページあたりの行数：**45行程度**

・１行あたりの文字数：**42文字程度**

・余白の設定：**上 20mm・下 18mm・左 17mm・右 15mm 程度**

　　○年については西暦で記載して下さい。

**２．履歴書**

履歴書は、下記の項目を年代順に記載願います。また、所定の位置に写真1枚（縦4cm×横3cm程度）を貼り付けて下さい。

○氏名（**ふりがなを付ける**）、性別、生年月日、年齢、本籍（**都道府県名のみ**）、現住所、電話番号

　○学歴：高等学校卒業以降についての入学・卒業・修了等の年月、学校名（正式名称で）

○資格・免許等：医師・歯科医師国家試験合格（年月・実施回を記載）、医籍・歯科医籍登録（年月・登

録番号を記載）、学位受領（学位取得大学・学位記に記載の年月・機関等の名称を明記）、他

　　　　　　　　　　※学位の名称は、学位記の記載に則って下さい。（修了時期によって異なります）

　　　　　　　　　　　　・1991年6月以前の修了者：○学博士

　　　　　　 ・1991年7月以降の修了者：博士（○学）

○職歴：大学・研究機関等の名称、所属講座・部局名、職名を付記して下さい。臨床研修についても記載して下さい。退職している場合は退職年月をカッコ書きで付記して下さい。

**３．研究業績**

　　下記のⅠ.～Ⅶ.の項目に分類し、それぞれ発表・発行年代順に番号を付けて記載して下さい。なお本人名は下線を引いて太字にして下さい。

　　○英文の業績については、半角文字で記載して下さい。

　　○項目ごとに改ページするよう体裁を整えて下さい。

　　○所属部外の共著者について、その所属等を付記する必要はありません。

　　○雑誌名は省略せず、正式名称で記載して下さい。

　　○雑誌の号については、号ごとに頁番号が１ページから始まっている場合のみ、巻の後にカッコ書きで

号を記載して下さい。

Ⅰ．原著論文

　　　学会、学術研究機関等の機関誌および専門誌に掲載された論文。学位論文の場合は、タイトルの横に

　　　カッコ書きで（学位論文） と付記して下さい。

Ⅱ．臨床論文および症例報告

・臨床論文：治療法、経過観察、薬物の治験等に関する論文。

・症例報告：臨床診断、治療経過等に関する報告。

Ⅲ．総説および解説論文

・総 説：文献調査に基づいた論旨の明確なもの。参考文献が20編以下のものは、「Ⅵ．その他」

に分類して下さい。

・解説論文：専門分野における基礎、臨床、研究および公衆衛生活動における考え方、または技術的

な解説を内容とする論文。

Ⅳ．単行図書

　　　・ISBN（国際標準逐次刊行物番号。”International Standard Book Number” の略）が割り振られ、

　　　　公に入手可能な書籍

　　　・単著、共著もしくは編著、分担執筆の別をカッコ書きで記載して下さい。

Ⅴ．プロシーディングス

　　　・学会・シンポジウム等での発表内容が刊行物として出版されたもの

　　　・カンファレンス、シンポジウム、ワークショップ等の別をカッコ書きで記載して下さい。

　　　・事前・事後抄録がある学会発表は除きます。

Ⅵ．その他

これまでの項目に該当しないもの。

例：文部省科学研究費補助金実績報告書・研究成果報告書、辞典類の分担執筆、３ページ未満の項目

解説、Q&A等の問答形式による著述、カラーアトラス 等

Ⅶ．学会発表

　　　・専門学会に発表された学術的報告で、当該学術誌に発表抄録が掲載されているもの。

　　　・発表者名、演題、学会名、学会開催年月日、開催地名、抄録掲載雑誌名、巻（号）、掲載ページ、雑誌発行年の順に記載して下さい。

　　　・開催地名については、東京都以外は市名で、英文発表の場合は、都市名と国名を記載して下さい。

履歴書および研究業績目録

（２０○○年○月○○日現在）

東 歯 太 郎

履 　歴 　書

写真貼付

縦4cm×横3cm程度

本人単身胸から上

裏面のり付け

（男）

生年月日 １９○○年○○月○○日生 ○○才

本 籍 東京都

現 住 所 東京都千代田区神田三崎町2-9-18

電話番号 03-6380-9001

１９○○年 3月 東京都立○○○高等学校卒業

１９○○年 4月 ○○○○大学入学

１９○○年 3月 ○○○○大学卒業

１９○○年○月 第○○回歯科医師国家試験合格

１９○○年○月 歯科医籍登録 第○○○○○○号

１９○○年○月 ○○○○大学○○○○病院　臨床研修歯科医

１９○○年 4月 ○○○○大学大学院○○研究科（○○○○学専攻）入学

２０○○年○月 ○○○○大学大学院○○研究科（○○○○学専攻）修了

２０○○年○月 博士（○○学）の学位受領（○○○○大学）

２０○○年○月 ○○○○大学○○○○学第○講座 病院助手

現在に至る

研 究 業 績

Ⅰ．　： ○○編（うち英文：○○編）

Ⅱ．臨床論文および症例報告　： ○○編（うち英文：○○編）

Ⅲ．　： ○○編（うち英文：○○編）

Ⅳ．　： ○○編（うち英文：○○編）

Ⅴ．　： ○○編（うち英文：○○編）

Ⅵ．　： ○○編（うち英文：○○編）

Ⅶ．　： ○○編（うち英文：○○編）

（うち過去５年以内のもの ： ○○編、うち英文：○○編）

上記のとおり相違ありません。

**Ⅰ．原著論文：○○編（うち英文：○○編）**

1. **東歯太郎**

○○○○に関する実験的研究 （学位論文）

歯科学報, 78:101-115, 2009

2. **Tohshi T.**, Suidoh M., Ichikawa J., and Inage S.

　　An experimental study of osseointegrated implant

The Bulletin of Tokyo Dental College, 82:10-19, 2015

3. 水道三男，市川次郎，**東歯太郎**，稲毛四郎

　　○○○○における○○○○および○○○○とその影響に関する研究

（第1報） ○○○○の○○○について

日本歯槽膿漏学会会誌, 11:1496-1507, 2016

4. **東歯太郎**

　　○○○○の○○としての「○○○○」についての予備的研究

　　　口腔衛生学会雑誌, 35:815-816, 2017

5. 稲毛四郎，市川次郎，美浜 真，**東歯太郎**，水道三男

　　○○に問題のある○○○○の背景要因 －○○○○○○○○について－

　　 ○○○○研究, 38:45-52, 2017

6. 美浜 真，市川次郎，**東歯太郎**，稲毛四郎，水道三男，東歯花子，水道橋達也，○田△雄，○山□博，

◇川 ☆，△浜○太郎

　 ○○○○○○手術の臨床的検討 －特に○○○○症例について－

歯科学報, 80:1051-1075, 2018

7. **東歯太郎**，稲毛四郎，水道三男

　 ○○○○○法による○○○の○○○行動および○○行動の評価

歯科ジャーナル, 130:83-89, 2018

8. **東歯太郎**

　 ○○病院○○科における○○症患者の○○○○に関する術後観察

日本○○会雑誌, 40:15-21, 2018

……

**Ⅱ. 臨床論文および症例報告：○○編（うち英文：○○編）**

1. 東歯花子，水道三男，市川次郎，**東歯太郎**

　　高齢者における○○○○診断と○○○○処置

　 －○○○○○に対する○○○○○○○○の臨床的観察－

　　　日本歯科○○○学会誌, 10:108-133, 2013

2. 東歯花子，**東歯太郎**，市川次郎，水道三男

　　○○○○○による○○○○とその臨床応用について

　　 日本歯科○○○学会雑誌, 41:1085-1092, 2014

3．水道三男，**東歯太郎**，稲毛四郎

　　○○○○における○○○○の役割

　 補綴臨床, 17:356-382, 2014

4．**東歯太郎**，東歯花子

　　○○○○の現状と展望

　 日本○○○○学雑誌, 67:107-110, 2015

5. **東歯太郎**

○○○疾患における臨床上の問題点と全身状態との関連

臨床○○○○, 34:109, 2016

6. **Tohshi T.**, Inage S. and Ishikawa T.

Clinical techniques for ○○○○○○○○

Neuroscience, 24:15-20, 2017

7. Masago M. and **Tohshi T.**

Responses of ○○○○○○ ○○○○○○ to chemical stimulation of the ○○○○ in ○○

Biomaterials, 15:32-39, 2018

……

**Ⅲ．総説および解説論文：○○編（うち英文：○○編）**

（学会機関誌）

1. **東歯太郎**

　 ○○○○○○○○について

　　 日本歯科○○○学会雑誌, 235:62-91, 2014

（専門誌その他）

1. **東歯太郎**，東歯花子，真砂美子

○○○○○のメカニズム

ザ・クインテッセンス, 14:198-209, 2015

2. **Tohshi T.** and Johnson J.

　Expression of connexins in developing gene

　 　　Journal of Oral Science, 1:367-374, 2016

3. 水道橋達也，**東歯太郎**

高齢者治療における○○○診断と処置

……

Dental Executive, 3:101-110, 2017

4. **東歯太郎**

高齢者の○○○○治療における○○○○に関する研究

老年歯科医学, 90:41-45, 2017

**Ⅳ. 単行図書：○○編（うち英文：○○編）**

1. **東歯太郎**（単著）

　　永久歯○○○の歯科

　　　医歯薬出版, 東京, 2014

2. **東歯太郎**（分担執筆）

　　図説臨床歯科○○○診断「○○○○概論」

　　　デンタルダイヤモンド社, 東京, 2015

3. **東歯太郎**，東歯花子（共著）

歯科医師と衛生士のための○○学

日本歯科新聞社, 東京, 2016

4. **東歯太郎**（分担執筆）

○○○変形症の○○的○○治療

　　○○○手術の歴史:105-115，○○○法:113-124， ○○○法:156-162，○○○術:172-185

日本歯科評論社, 東京, 2017

……

**Ⅴ．プロシーディングス：○○編（うち英文：○○編）**

（シンポジウム）

1. **東歯太郎**

　　○○○○○○○○についての考察

　　 第28回○○○○学研究会, 2015年, 東京都

　　 ○○○○学会会誌, 10:25-31, 2015

2. **東歯太郎**

口腔○○○○の○○○治療への応用

第7回口腔○○○○○○○○セミナー, 2016年, 千葉市

　 第7回口腔○○○○○○○○セミナー抄録集:10-11, 2016

（ワークショップ）

1. **東歯太郎**

○○○のメカニズムとその予防

第9回日本○○○学会総会ワークショップ, 2017年, 東京都

第9回日本○○○学会総会抄録集:45-49, 2017

……

**Ⅵ.その他：○○編（うち英文：○○編）**

1. **東歯太郎** （分担執筆）

　　○○○○と○○○○の形の変化：160-173

　　　医歯薬出版, 東京, 2014

2. **東歯太郎**（項目解説）

　　○○○○医学大辞典 第○○版:○○項目

　　　○○○○社, 東京, 2015

3. **東歯太郎**，東歯花子

○○○ライブラリー　○○切除術

　　 デンタルダイヤモンド, 5:10-15, 2016

……

**Ⅶ. 学会発表：○○編（うち英文：○○編）**

（うち過去５年以内のもの：○○編、英文：○○編）

1. **東歯太郎**，水道三男，市川次郎

　 ○○○○大学病院における○○○○の○○○○について（第1報） 診療○○○○の○○的考察

　　　第○○○回東京歯科大学学会例会, 2014年○○月○○日, 千葉市

　　　日本○○○○学会雑誌, 88:98, 2014

2. **東歯太郎**，市川次郎

　　○○○○と○○○○に関する臨床○○学的検討 ―歯科医療の○○○○○○に向けて―

　　　第45回日本○○○○学会総会, 2015年○○月○○日, 東京都

　　　日本○○病○○学会雑誌, 2:145, 2015

3. **東歯太郎**，市川次郎，水道橋達也

○○○○○における○○○○に伴う○○○○○○○○に関する研究

（第2報） 口腔○○○の○○○について

　　 第○○○回東京歯科大学学会例会, 2016年○○月○○日, 千葉市

　　　歯科学報, 90:184, 2016

4. **東歯太郎**，東歯花子，市川次郎，水道三男，稲毛四郎，水道橋達也，真砂美子，○田△雄，○山□博，

◇川 ○，△浜○太郎

○○○部に発生し、○○○に及んだ○○型○○○の一例

　 第○○回日本○○○学会関東地方部会, 2017年○○月○○日, 宇都宮市

　　 日本○○○学会雑誌, 17:340, 2017

5. **Tohshi T.**, Inage S., Suidoh M., Ichikawa J., and Masago M.

Experimental study of the application of ○○○○○○ ○○○○○ for ○○○○○ ○○○○○

13th International Conference on ○○○○○○ ○○○○○○, July ○○th, 2017, Kyoto

International Journal of ○○○○○○○○ ○○○○○○○○, 30:43-48, 2018

……